

■知的支援学校における実践事例

「読みたい!」と思える環境づくりに取り組んで

鳥取大学附属特別支援学校
司書教諭 児島陽子
学校司書 入川加代子
小学部担任 高田大輔

はじめに

学校図書館にマルチメディアDAISY図書を配架して、約3年が経ちました。この間、職員への紹介、子どもたちのニーズに合わせた学習場面での活用、学校図書館オリエンテーションにおける全学級での視聴など、さまざまな取り組みを行い、マルチメディアDAISY図書の普及・活用に取り組んできました（わいわい文庫活用術①②参照）。

しかし、マルチメディアDAISY図書についての理解は進んだものの、活用となるとまだまだ一部の教職員や生徒にとどまっているのが現状です。

研究目的

本年度、本校にiPadが43台導入され、一人が1台、iPadを使える環境が整いました。

また、大学の予算により、学校図書館の隣に障がいに応じた読書スペースとして、ワーキングルームの

整備が進められることとなりました。

そこで、今回は次の2点を目的として研究に取り組むことにしました。

- ・校内の教職員向けにICT研修会を行い、iPadを活用したマルチメディアDAISY図書の使い方についてより知ってもらう。
- ・子どもたちが、自ら「読みたい!」と思い、自分で読めるようなマルチメディアDAISY図書の環境整備を行う。

研究準備

(1) Voice Of Daisy (VOD) を購入し、43台のiPadにインストールしました。その後、12台のiPadに2～3タイトルのマルチメディアDAISY図書を入れ、ICT研修会で教職員が視聴できるように準備しました。

(2) わいわい文庫を1作品ずつ、CDに分割し、透明なケースに入れ、表紙にタイトルや挿絵を入れて、より子どもたちが、マルチメディアDAISY図書を手に取って、選べるような工夫をしました。



分割したマルチメディアDAISY図書

研究内容

(1) 教職員向けICT研修会の実施

夏休みに「マルチメディアDAISY図書・教科書について知ろう!」というテーマで、校内研修会を行いました。その中で、次の4つの『はらぺこあおむし』を実際に体験してもらい、感想を聞きました。

- DVD…動画+音声
- 絵本の読み聞かせ…絵+音声
- わいわい文庫（滑らか読み）
- わいわい文庫（わかち読み）

いずれもプロジェクターや実物投影機を使用して、前面の大型スクリーンに映しながら視聴してもらいました。

それぞれのメディアの特性があり、それぞれのよさがあること、マルチメディアDAISY図書は、音声を聞きながら、ハイライトを目で追うので、どこを読めばいいかがわかりやすく、活字を読むのに集中できること、わかち読みの作品は、拾い読み段階の子どもには、文字を単語や文節のか

たまりとして意識できるので、音読指導の教材としても有効活用できるなどの感想が聞かれ、どのような子どもたちに、どんな活用の仕方ができるのか、先生方に考えてもらうよい機会となりました。



教職員向けICT研修会

(2) iPadを活用した実践

校内研修会の後、さっそく子どもたちにあったマルチメディアDAISY図書をiPadに入れ、授業の中で、視聴した実践事例を紹介します。

・小学部1組

<子どもの実態>

小学部1組は、1年生3名、2年生1名の合計4名の学級で、発達年齢に幅がある集団です。読書に関しても、すらすらと活字が読める子ども、拾い読みの段階の子ども、読める文字が増えてきている子どもとさまざまです。絵本の読み聞かせでは、お話が長かったりむずかしかったりすると、集中が途切れやすくなることから、1ページに書かれている文

が短くてわかりやすい内容のものや言葉が繰り返される展開のもの、絵や写真が魅力的なものを選ぶように心がけました。

<実践>

『やおやさん』

『やおやさん』は、学級の子もたちがよく知っている野菜の写真を見て、ひらがなで書かれた名前を音声で聞いたり、読み上げたりすることを通して、文字をかたまりとして捉えたり、1文字ずつ読んだりすることをねらいました。

はじめは、iPadから流れる音声や教師の口形を手本にして、全員が声をそろえて野菜の名前を言うことから始めました。文字に焦点があたるハイライトにあわせて1文字ずつ言ったり、iPadの音声を流す前に読みをクイズにして質問したりしながら学習を進めました。

子どもたちは、読み上げる音声の後に続けて、大きな声で野菜の名前を読むことを楽しみました。iPadの音声は、初めに1文字ずつハイライトをあてながらゆっくりと読むため、文字を見ながら音声にあわせて読もうとする姿が見られました。

『こぐまちゃんのみずあそび』

『こぐまちゃんのみずあそび』は、ハイライトによって焦点化される文

や単語を、自分から目で追いながら音声を聞くことで、主体的にお話を読もうとする意欲を高めることをねらいました。

子どもたちは、机から身を乗り出して、文から文へと焦点が移り変わるハイライトを目で追いながらお話を聞く姿が印象的でした。



iPadで視聴

<実践を振り返って>

- ・『やおやさん』は、文字に黄色のハイライトがあたり、音声で1音ずつ読み上げられることで、文字と読みの対応を学習することができる。
- ・『こぐまちゃんのみずあそび』は、挿絵に合わせて、短い文を耳で聞きながら読むことで、読みの感覚を味わうことができる。
- ・iPadを通して絵本に慣れることで、主体的にお話を読もうとする意欲を高めたり、物語に対する興味を広げたりすることができる。
- ・子どもたちのiPadに対する興味・関心から、学習への集中を高められる。

- ・読み上げる速さや間を変えられるため、子どもの実態に合わせて学習することができる。
- ・iPadは、持ち運びがしやすいため、場所に関係なく使用することができる。
- ・iPadは、小集団学習や個別学習など、さまざまな学習形態に対応できる。さらに、プロジェクターなどとの連携により、大集団でも活用できる。
- ・児童の実態に合わせて見やすいよう、挿絵の大きさが変えられるといい。

(3) マルチメディアDAISY図書の環境整備

マルチメディアDAISY図書がより活用されるためには、多くの図書の中から、子どもたちが「読みたい!」と自ら選んで視聴できる環境づくりを行うことが大切だと考えています。学校図書館の隣に障がいに応じた読書スペースとして、ワーキングルームを設け、12月に開館しました。

視聴覚ライブラリーの書架には、わいわい文庫（分割した作品CD）や日本リハビリテーション協会の図書（Easy Reader Expressで再生できるもの）のケースを分類して展示しました。読みたいタイトルのケースをカウンターに持って行き、学校司書がマルチメディアDAISY図書を出して、貸し出すようにしました。AVブースには、4台のパソコン（こ

のうち3台はWindows8でタッチパネル）を設置し、個人で読書などができるようにしました。各学級ごとにオリエンテーションを行い、使い方を指導しているところです。



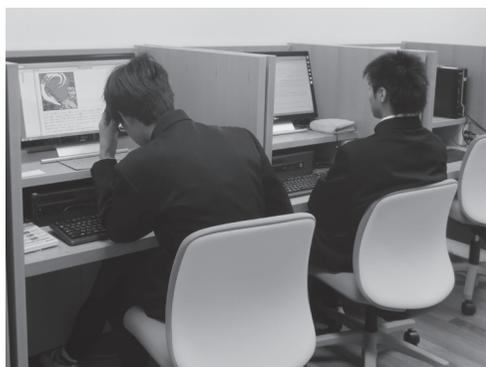
視聴覚ライブラリー



整備されたワーキングルーム

また高等部には、教育課程の中に「余暇の時間」があり、授業の中で、ワーキングルームを活用しています。授業では、ライブラリーの中から自分で『羅生門』『若草物語』などを選んで視聴する姿が見られました。「耳で聞きながら、読んでいる場所を確認できるので、分かりやすい」「ルビがふってあるので、漢字の読みの練習に

なる」という感想も多く聞かれました。まだ数は少ないですがDVDも購入しており、余暇活用としておおいに利用してほしいと考えています。



高等部・余暇の時間での活用

おわりに（成果と課題）

ICT研修を行い、地域のセンター的な役割として同じような研修を外部でも2回、実施しました。その結果、「担任している子どもに使ってみたい」「iPadはどこでも使えるので、いいですね」という感想が多く聞かれ、実際に活用してくださる先生も少しずつ増えています。しかし、VOD（Voice Of Daisy）を43台のiPadすべてにインストールしましたが、マル

チメディアDAISY図書を43台のiPadに入れるには、かなりの時間と手間が必要だということがわかり、できませんでした。

また、ワーキングルームの整備についても、昼休憩などを中心に子どもたちが自由に楽しめ、家庭への貸し出しも行えるようにしたいと考えていますが、成果と課題が見えてくるのはこれからだと思います。

いずれにしてもマルチメディアDAISY図書が活用されるためには、子どもに合った図書を紹介したり、使い方を教えたりする「人」を増やすこと、自由に子どもが使えるような施設や機器の整備を行っていくことが大切だと感じています。

2016年4月には「障害者差別解消法」が施行されます。マルチメディアDAISY図書が、活字だけでは読書が楽しめない子どもたち、情報を収集できない子どもたちのための合理的配慮として、日本社会に根づいていくことを願って、今後も実践を行っていきたいと思います。